

茶柱 その147

掛川お茶大使 & 日本茶インストラクター

吉岡亜衣加のお茶の間通信



八木園長がお抹茶をたてる様子を、皆さん真剣に見つめていました。

私もいただきました♪



きらきら保育園の皆さんと。貴重なひと時を過ごすことができました。

掛川市のきらきら保育園の皆さんが、市内にある冀北学舎にて「ひな祭り茶会」を開催するということでお誘いいただき、参加させていただきました。

畳の部屋には子どもたち制作の可愛いお雛様が飾られていて、癒やされる空間です。少しすると子どもたちが入室してきました。年長年中2つのグループに分かれてのお茶会です。

皆さん並んで正座して、まずはお茶菓子一つ取って隣の人に渡し、味わいながら食べます。風炉先屏風(ふうさきびょうぶ)という茶道具にちなんで、子供たち制作の

流し染めのお着物を召した八木留里子園長が、丁寧に抹茶をたて、その様子を皆さん真剣な眼差しで見つめていました。

お茶はその後全員にふるまわれ、園で練習してきたお作法にのっとりお茶を楽しみます。私の順番になると皆さんじつと私の方を見つめて、お菓子を食べ終わった時には「こつやつて畳んで後ろに置いておいて」とお菓子を食べる時のお皿代わりなどで使う懐紙(かいし)の扱い方を、お茶の飲み終わりにはこちら「茶碗を指で拭くんだよ」と教えてくれました。

お茶会が終わるとホッとした表情で子どもたちから「お茶は苦いけどおいしかった。」

また飲んでみたい「正座は足が痛いけど崩さずに頑張った」という感想や、「お作法の練習は楽しかった」「昨日は濡れた雑巾で畳の目に沿って心を込めてお掃除をしたんだよ」と当日まで準備をしてきたお話も聞くことができました。

例えばお辞儀一つとってもお菓子を渡す、受け取る、という意味があり、八木園長は「お茶の経験を通し、思いやりや感謝の気持ちを育んでほしい」と仰っておられました。

おいしいお茶に丁寧な空間、子どもたちのかわいらしい中にも凛とした姿を見させていただき、私もお茶を通して心見つける貴重なひと時を過ごさせていただきました。ありがとうございました。

ひな祭りのお茶会にお誘いいただき、園児の皆さんと茶道を体験しました♪